

ガンバレ、消防音楽隊！（その60）2004・7月更新分

今まで何度も話に出てきましたが、出初式に始まり、成人式、市民まつり、市のイベントなどなど、多分、全国的に同じかと思いますが、消防音楽隊って官庁関係の出演が圧倒的に多いです。

平成7年に初めて「大阪府身体障害者連合」という団体から藤井寺市を通して出演依頼がありました。毎年、身体障害者の方々のスポーツ大会（運動会）を開催されているようで、今回、開催地が藤井寺市ということでのお話でした。演奏内容は、朝の開会式と昼食後午後の競技が始まるまで、40分間程の演奏です。

モチロン出演するのですが、考えなくても思い出せそうな超数少ないレパートリーの中から演奏曲目を決めるが一番の悩みです(～_～;)

トニカク、打合せ（探り）を・・・、

「参加者の年齢層は？」

「成人もいますが、小中学生の方もいますよ」

子供さんから大人の方まで、つまり、「市民まつり」と同じ選曲でよいということ。でも、我々は子供さん向けの曲は殆ど持っていませんでした。

と、いうのも、TVアニメの主題歌は、吹奏楽用の譜面も売り出されていますが、アニメに限らずテレビ番組自体、半年とか一年で終わります。（ドラマなんかは1クール13回程度で、約3ヶ月）

長く放映されている場合でも、その主題歌は放映中でもリニューアルされる事が多い様です。（「サザエさん」だけは特別ですね）

新番組やリニューアルのサイクルの中で、皆さんが忘れてしまわないうちに、タイムリーに、演奏しなければあまり意味がありません。ところが、当消防音楽隊は、1曲仕上げるのに数ヶ月。それにウチの場合、この「仕上がる」ってのも、何の曲を演奏しているのか辛うじて分かるっていうレベルです。（もうご

存知でしょうが念のため(^-^;) ですから、「流行歌（はやりうた）には手を出さない！」と言う考えでやってきました。でも、そうなると、「子供さん向けの曲」は、「ディズニー・メドレー」のたった一曲のみ。（まだ今だかつて満足に演奏出来ていない!(>_<))

音楽隊の練習が終わってから、すこしその話を隊員としていたら、日頃どちらかと言うと無口な音楽隊の先生（男性）が急に割り込んできて、

「河井さん、『セーラーMoon』っていいですよ~(^-^)」

いつも無口で、無表情な人ってイメージだったんですが、ニコニコしながら、いきなり**少女アニメ**のお話です。

ん？この人**マニア**！？(・・;)

「エ？なにがですが？」

「『**美少女戦士セーラーMoon**』ってアニメ知ってはいりますか？」

名前だけは知ってはいりますけど、私、そっちの趣味は別に…(´・`)

「あれは**スゴイ**ですよ(^-^)」

ひえ~~~~、先生なんでそんなにウレシそうなん。チキン肌になって**さぶいぼ出そうー**。

「へ~、そうなんですか(^-^;)」

ああ、ひいてしまう(ToT)

「あのアニメの曲は、一昔前の歌謡曲みたいで、しかも、何回最終回になっても、必ず翌週から新シリーズがはじまるんです」

?!?!な んだ、**音楽の話**でしたか？安心した(~_~)

「でも、テーマソングは変わってるんでしょ？」

「それが、ずっと同じ曲なんです」

「同じ曲をアレンジ変えて使ってるんですか？」

「いえいえ、全く同じアレンジ」

「マジっすか？」

そんなオイシイ曲があるなら早く言ってヨ - 。

「演奏したら、**女の子達の大合唱**ですヨ」

「早速、手配してみます！」

曲が変わらないのなら、うちでも使えます！v(^ ^)v

すると隊員達から、

「**クレヨンしんちゃん**も流行ってるでー」

「そうそう、あの曲も長い間変わってないよなあ」

と。

「そうなん！じゃ2曲ともやってみようか！」

この時期、巷では、「**クレヨンしんちゃん**」と「**美少女戦士セーラー
ムーン**」、二つのTVアニメが**ダントツ**の人気になっている事は知っていましたが、新旧入れ替わりの激しい中、一時的な人気度だけで、寿命の分からないTV番組のテーマソングに飛び付くのを躊躇していたのです。でも「曲」が変わらないんだったら話は別！！

とりあえず速攻で2曲の譜面を発注し、夜、テレビでどんな曲かチェックです。(テーマソングですから、番組の一番最初に流れるハズ。数分前からテレビの前に座って待機。でも大の男がアニメ始まるのを待っている絵は、すこし寒い)

『 **パニック、パニック、オ～ラはすごいぞ、カ～モンベイビー、カモンベイビー、たまねぎ食べれる？**

ゾー～さん、ゾー～～さん、オラは人気者～、天才的だぞ、なあみさえ、将来楽しみだ～「しんのすけー！」

』

『 **何度も巡り合う～・・・ムーンライト、信じてい**

るの、ミラクルロマンス

月に代わってお仕置きヨ~~~~!

』

プチッ、歌だけ聴いてテレビ消します。

再び静寂がよみがえります。

なんだ今のは? (-_-; うっ頭痛い。

一回聴けば十分ですが、なんかどっと疲れます。

まだ、楽譜も見えていないので全く知らない曲でしたが、いっぺんに気が重くなりました。

でも、この2曲をやらなきゃいけないんですねー(>_<)

注文していた譜面が入荷次第隊員に配りました。

隊員達の反応もさまざま、

「ん? 「クレヨンしんちゃん」に「美少女戦士セーラームーン」? 」

「ふ~ん、アニメの曲は初めてやなあ~ 」

「うちも、とうとう流行に追いつこうってか? 」

(ちゃうわい! その2曲だけが追いつけそうなだけや!)

と、心で突っ込み入れながら、

「本番で使うからさっさと練習、練習! 」

次回、「あ～～あ～～」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その61）2004・8月更新分

我が消防音楽隊で初めてのアニメの曲は「クレヨンしんちゃん」と「美少女戦士セーラームーン」です。

ずっと使えるテーマソングって言うことで、この2曲になりましたが、これで良かったのかなあ～？って若干の不安も感じながら、トニカクなんの曲か分かってもらえる演奏が出来るように練習するしかありません。（目標設定が非常に低～い）

でも、皆、なんだか楽しそうです。曲目によって練習の空気も変わることも分かりました。（中には、眉間に縦皺で「クレヨンしんちゃん」吹いている隊員も（-;-））。本人は真剣そのものですが、逆にそれが不気味です。そんな表情で演奏したら怖いで～（x_x）

チャント「**ゾー**ーさん、**ゾー**ーーさん、」

ってフレーズもあって、しかもクレッシェンドしながら演奏する指示が譜面にあります。

それと練習曲の具体的な見本があるという事は非常に大きなプラスでもあります。特にテレビで毎週流れているのですから、聴こうと思えば苦勞なく聴くことが出来ます。

更に、一般の方々にも、全く知らない曲目よりも、聴き覚えのある曲の方がよく聴いてもらえます。

私自身もよく考えてみたら、幼稚園時代のピアノ、小学生時代のギター、中学生時代から継続中のバンド活動、高校生時代の吹奏楽、社会人になってからの吹奏楽団、この全てをとおして、このアニメソング「クレヨンしんちゃん」と「美少女戦士セーラームーン」（「**ゾー**ーーさん」、「**ミラクルロマンス**」って言う）2曲が初めて、記念すべき曲です。

合奏練習をしていますが、「楽しそうに聴いてもらえたらいいや。」って考えてしまいましたが、ウチの演奏では、どんなにひいき目に聴いても息苦しい感じがしてしまいます。

しかし、10月初旬の「身体障害者スポーツ大会(運動会)」と10月下旬にある市民祭り級のイベントの舞台演奏で使うつもりですので、私の頭の中では、**子供達にバカ受け、「女の子達の大合唱」**みたいなイメージが出来上がっています (^_^)v

細かい箇所は出来ていませんが、何週間かかけて、途中で止まることもなく、大体曲が分かる程度の演奏は出来るようになりました。「まーなんとか使えそうになったし、ホッとひと安心(^_^)」

10月の第一金曜、2日後の日曜にある「身体障害者スポーツ大会(運動会)」直前にて最後の練習中、

ある隊員から、

「変わっちゃいましたね(^-^;)」

の一言。

「ん？」

「え？知らないんですか？」

「なにが？」

「テーマソング。」

「だから、なにが??」

「違う曲してましたよ。先週の『セーラーMoon』」

「エ、マジで!!」

すると他の隊員から

「『しんちゃん』の曲も変わったなあ。」

「ゲ、ウツソ (>_<)テーマソング変われへんのんちゃうの??」

「今まで何年間も変われへんかったけど、2週間ほどの間に2つとも変わったみたいですよ。」

「え~~~~、参った、参りました。(..)」

「明後日の本番はこのままの曲で行きますか？」

「他に出来る曲ないやん。(-;-)」

「ですよね~(^-^;」

という事で、最後の練習はガックリ気落ちした状態。

2日後、新曲お披露目です。世間では既に新曲じゃないけど……。

パニック、パニック、パニック、パニック、パニック、パニック、パニック、パニック、……

月に代わっておしおきヨ~。

この2曲のフレーズが頭の中でグルグル回っています。

明後日のために練習してきたのに……。

パニック、パニック、パニック、

将来楽しみだ ~!

(楽しみなんてありません(ToT))

「もう最低！」(@_@;)

次回「お披露目本番」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その 6 2 ）2004・9月更新分

何年も曲が変わらないからと、初めて選んだアニメテーマソング2曲は、何週間も練習してきたのに、お披露目2週間ほどの間に2つとも変わってしまいました。でも、他の曲に入れ替える「力」がない我々は、仕方なくそのまま予定通りの選曲で、10月第一日曜日、急に秋めいて肌寒く感じる朝、藤井寺市立第三中学校体育館「身体障害者スポーツ大会（運動会）」に向かいました。

開会式での演奏準備をしながら、参加者を見回しても、ほとんどが成人の方で、「子供さん」って感じの人はメッチャ少ない。

参加者の年齢層を確認したときは、

『成人もいますが、小中学生の方もいますよ。』

と言う返事だったのですが、「子供さん」って言える年代は数人のようです。

「おいおい話ちゃうやん。選曲、間違えたかも・・・(x_x)」

入場行進曲やファンファーレなど式典関係の曲を演奏し終え、引き上げる程の時間もないので乗ってきたバスの中で一旦待機です。

いつも出演場所では飲み物も手に入らないと隊員達がボヤクので、クーラーボックス満タンに「スポーツドリンク」を用意してきたのですが、誰も手を付けません。

また持って帰るのもシャクです。回りに居る隊員達に配ると、

「要りません。」とつれない返事。

「折角用意して持ってきたのに、飲んでくれよ～。」

「今日涼しいって言うか、寒いつすよ。」

「しゃーないなあ、飲みますワ～。」

「ひぁ～、キンキンに冷えてる～。」

「しかも、アメリカン・サイズやしー。」

「クソッ、悪かったな！」

と私は意地でも飲みますが、曇天の空のした、やはり寒くってなかなか一本が飲みきれません。

(>_<)う~さむいよ~

午前中の競技が終わって我々の演奏の時間となりました。

指揮者ですので、演奏前にお客さんにお辞儀した時の反応と、演奏後再びお客さんにお辞儀した時の反応の「差」が私には一番恐ろしいです。(ほとんどの場合、最初は「パチパチ」で、最後は「パラパラ」。普通は逆になるはずなんです(>_<))

今回までに「吹奏楽の生演奏」があったのかどうかは、分かりませんが、白い演奏服を着た35人の音楽隊が演奏の準備しているので、当然それなりに期待されてしまいます。(「音」を出すまでは、立派に見えるもんね~(^_^;))

さてさて、準備完了、拙い演奏ですが、頑張ります!

最初にお客さんに向かってお辞儀 m(_ _)m。いつも以上に、視線がこちらに向けられているので「期待」の度合いを感じます。(あまり期待しないでね~。)

今日は進行役になる司会者もいないようなので曲の紹介もなく、こちらの数少ないレパートリーを淡々と演奏していきますが、どの曲も相変わらずショッパイ演奏です。

最後に「セーラームーン」と「しんちゃん」です。世間では既に新曲じゃないけど我々には本日初公開。(あれ?字もヘン!)数少ない「子供さん」達の反応が気になりますが、指揮者は後ろ向き(バンド側向き)ですし、演奏自体が不安ですので、演奏中なかなか振り返るタイミングがありません。

セーラームーンが終わってからやっと振り向きましたが、どうだったのかよく分かりませんでした。(子供さん少ないし、演奏下手だし、古い方の曲だもんねえー。)

ガッカリしたまま、気を取り直す暇もなく、「やっぱ選曲ミスだったかな~。」と思いつつ「クレヨンしんちゃん」へ突入。

あきらめモードで指揮しつつチラッと後ろを見ると、うれしそうに笑顔いっぱい踊っている女の子の姿が！！

「ゾー—さん、ゾー—さん、パニック、パニック・・・」

って演奏しながら、なんか、グッと胸に熱いものがこみ上げてきます。

「こんなに下手クソな演奏なのに、こんなに喜んでくれている人がいる。」

今更ながら、踊っているその小さな女の子の姿に、冷遇される境遇の中で、私自身、薄れてしまいそうな自分達の存在意義を再認識させられた気がしました。

演奏後、最後のお辞儀をします。

動きにくい体の方々も拍手をしてくれています。

撤収して消防本部に引き上げるバスの中、

「踊ってくれた女の子いてたなあ。」

「うん、おったおった。」

「喜んでくれてたなあ。」

「いつもの、なーんも聴いてないオッサン等の前でするよりよっぽどエエわ。」

「あんだけ喜んでもらえたらこっちも嬉しいよなあ。」

「聴いてもらえたら、やっぱり嬉しいで。」

隊員達にも、その女の子が発したメッセージが十分伝わったようでした。

心の中で、

「その分チャント練習しろよ！(-;-)」

つつこんでおきました。

次回「大阪府消防協会救急車寄贈式典」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その63）2004・10月更新分

「 戸締まり用心 火の用心 戸締まり用心 火の用心 一日一度は良い事を・・・ 」

皆さんはこの歌をご存じでしょうか？

以前は、テレビでたくさん流れていた『火の用心のうた』です。（武本宏一作詞ノ山本直純作・編曲唄 荒川少年少女合唱隊 演奏：新室内楽協会 推薦：総理府（現内閣府）・警察庁・自治省（現総務省））

画面では、故笹川良一氏が拍子木、史上初アメリカ出身関取、192cm 205kgの高見山が大太鼓、故山本直純氏がマトイを振って子供達と歩いていました。

ご存じのとおり、故笹川良一氏（1899年5月4日 - 1995年7月18日）は、日本発祥のスポーツ競艇（モーターボート競走）を考案したことで知られ、社団法人全国モーターボート競走会連合会や日本船舶振興会を創設し、会長などを務めました。

その際、日本船舶振興会のCMに自ら出演し、「Together to tomorrow」をキャッチコピーに、子供たちとの「一日一善」を唱え、社会奉仕活動の様子が紹介されたのです。日本船舶振興会の活動によって海外では福祉事業家として知られ、1979年には、第一回国連平和賞を受賞されています。

（参考文献・

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AC%B9%E5%B7%9D%E8%89%AF%E4%B8%80>）

今回はこの歌の話ではなく（その後、この『火の用心のうた』を音楽隊で演奏することになるまで、曲名なども知りませんでした。詳しくはまたの機会に。）

故笹川良一氏が会長を務める財団法人全国モーターボート競争会連合会より、全国各都道府県の（社）モーターボート競争会を通じて、消防を含む全国の地方公共団体に、毎年救急車などの寄贈が現在も行われています。

大阪府ではこの寄贈式典を大阪府庁正面玄関左側の駐車場でを行い、毎回大阪府内の消防音楽隊が式典での演奏を行っていました。（現在は寄贈式典のスタイルも変わり演奏依頼はなくなっています。）

私は、平成3年の庁舎検討小委員会から、4年度5年度6年度と引き続き担当していた庁舎建設関連事業を無事終え（本当は翌年の議会で決算の可決（承認）

されてやっと終わりです。) そのまま総務課で財政を担当し、阪神・淡路大震災後の平成7年度は、震災対策事業の補正予算作成・成立・執行のために奔走してました。

震災関連とは別に、通常の業務の一環で前記の「救急車寄贈要望」を私の部署で申請を行っており、この年度は、寄贈を受けられる事になりました。(よかった、よかったv(^^))ところが、

寄贈式典での演奏依頼まで、柏原羽曳野藤井寺消防組合に来てしまいました。(あちゃ~(^_^;))

音楽隊の練習時に「救急車寄贈式典での演奏」について隊員達に説明していたところ、それを聞いていた先生の一人が突然、

「私、行っただけ！」

「え？先生出てくれるんですか？」

「いいよ~。その時間空いてるし、どうせその後、式典会場から仕事行けるし。」

「式典演奏だけなんですけど。」

「いいよ。楽しそうだし。」

「いいんですか？しかも、ノーギャラですよ、ノーギャラ。」

「うん、いいよ。」

「あと、演奏服が・・・。」

「大丈夫、同じようなブレザー持ってるから。」

「ノーギャラで、しかも服自前ですよ！」

「ううん、面白そうだし、気にしないで~。」

「いいのかなあ~？」

「平気、平気。」

と言う事で、「消防音楽隊+先生1名」の編成で、救急車寄贈式典での演奏が決定しました。(先生来てくれるんなら、先生の音で引っ張ってもらえて演奏もうまく聞こえるでしょう。)

平成8年3月、寄贈式典当日の朝。先生も隊員と同様に消防本部へ集合。(先生は消防本部から徒歩数分のところに住んでいます。曇天でちょっと肌寒い。)先生も乗っけてバスは一路大阪府庁へ。すんなり到着。

駐車場に作られた「臨時式典会場」には寄贈車両がズラリと並んでいます。メインのテントの隣に作られた音楽隊テントにスタンバイ。音楽隊員の中に完全に溶け込んで、先生全く違和感なし。(先生、お見事~！)

次回、「いよいよ式典本番」です。

ガンバレ、消防音楽隊！（その**64**）2004・11月更新分

救急車や無線車両などの寄贈車両がズラリと並んだ「臨時式典会場」。メインのテントの隣に作られた音楽隊テントで演奏の用意をして、待機です。

しばらくすると、**黒塗りの超高級車数台**（たぶん7, 8台だったと思うんですけど。ドイツの超高級車が大半！）が一列になって府庁正面玄関に滑るように入って来ました。

（おおお～っ。実際に見ると、正直言ってド迫力！（@_@）こんな光景テレビや映画でしか見たことありません。映画だと、次の展開は「撃ち合い」になったりする場面ですけど・・・（^_^;））

とたんに、慌ただしそうに動く府職員達。黒塗り超高級車から降りる方々は当然のように全員ダークスーツ。（ますます、それっばい(*_*)）離れているこちらからは、誰が誰なのかサッパリ判別できません。

関係者はみーんなお迎えに行っちゃったので、残った我々は、式典開始までただ待つだけです。

15分程、シ～ンとしていたのですが、突然ザワザワ。式典関係者の皆さんが一斉に府庁から出てきました。

式典メインテントに出席者が着席し出し、準備完了。府職員に誘導されて笹川会長が登場されました。当然テレビでしか見たことのない方でしたが、若干小柄な方で、しかし、背筋が伸び稟とした印象を受けました。

式典が始まってしまうと、音楽隊テントからは、隣のメインテント内部の様子は見にくくなりますが、スピーカーからながれる内容で進行状況は分かりません。

誤解を恐れずにいいますと、制服に身を包み演奏する音楽隊は、一見派手に思われるでしょうが、多くの場合「完全に脇役」です。

演奏依頼の時は、「華を添えてください。」と言われるのですが、意外なほど、我々にスポットが当たる事はありません。

特に式典での音楽隊の役目は、適度な『音量』で、適切なタイミングで、音を出し、円滑に式典を進める事で、音楽隊が目立つ事ではありません。

（ただ、企画がズサンだったり、指示が曖昧だったり、演奏の合図がなかったり、いい加減な人間や、自分の護身のために**政治力**や**上役の顔色**でコロコロ段取りが変わる人間が指図する立場だったりすると、主催者側の不手際が原因で失敗しても、事情を知らない人々から、音楽隊が非難の目で見られる事が驚くほど多いのです。式典が終わっても音楽隊は放ったらかしで、引き上

げていいのかどうかの指示もない事も多々あります。なんのために打ち合わせしたのか分からない事だらけ! (- “ -;))

こちらとしても、多くは望んでいません。音楽隊が式典の失態を誘発する事だけは避けるように神経を使っています。

普通の「音楽団体」の指揮者は、「音楽の事」を重点的に対処すればいいのですが、音楽隊の場合は「音楽」以外の事に対応出来ないと務まりません。

今回は「進行」も比較的単純なので、苦勞はしませんが、VIPが多いですから、我々音楽隊の存在は誰も気にかけていません。(どこでもたいがいそうですから、慣れてしまっていますが。)

今日は演奏する度にクラリネットが約1本だけ飛び抜けて聞こえます。オマケに、演奏中体が大きく揺れています。(ウチの隊員達は硬直状態で微動だにせず無表情で楽器を吹きます。それもチョイト怖いけど。たして2で割ったら丁度かも(^_^;))

先生、揺れすぎです！音楽隊は目立ってないけど、先生十分目立っています。音楽隊の中に、一人だけ「明らかに異質な人」が入ってるのが一見して丸分かりです。

ご挨拶や来賓等の紹介が終わり、寄贈される車両を会長が見て回ります。音楽隊は観閲用の曲を演奏します。「観閲」した後はスグに元の席に着席し、式典が続くのが普通ですが、笹川会長はグルっとひととおり見て回って、我々消防音楽隊のテントまで来られ指揮している私の横で立ち止まりました。

演奏中ですので、「エッ！？どうされたんですか？」と尋ねる事も出来ず、横目で曖昧な会釈を。すこしの間じっと音楽隊の演奏を聴いてから、自席に戻って行かれました。

消防音楽隊は昭和61年4月発足、もうすぐ満19年になるのですが、約200回の演奏活動の中で、主賓と言うか、VIPの人が、我々の消防音楽隊に敬意を表してくれたのは、後にも先にも、唯一この方だけでした。

(普通の場合は、依頼内容が全て終わってから、担当者から「お礼」を言われます。良いときは「お偉い人」から「お疲れさん」とか「ありがとう」とか声をかけてもらえます。でも、ヒドイ時はさっき書いたとおり、引き上げていいのかさえも分かりません。担当者が護身のためだけに動き回って忙しいからでしょうね。)

しかも、ほんの数秒間ですが視線を合わせた会長の『藍い目』に「不思議な力」を感じた事は、今思い出してもとても貴重な体験だと思います。

さて、式典は順調に終わり、府職員達は再び会長ご一行と共に去ってしまい、式典出席者も帰り出しました。ウチも片付け出します。

「先生、お疲れ様でした、ありがとうございました。」

「い～え～～～、面白かったワ～、ガハハハ(^ ^)」(先生ゴキゲンです。)

「すみません、こんなところにまで付き合ってもらって。」

「いーねん、時間空いてたし。」

「ノーギャラの『お礼』になって変ですけど、乗ってみます？救急車。」

「い - の 、一度乗ってみたかってん！()」

「はい、まだ配置に付けてない『車』なので、今なら特別にいいですよ。」

「やった \ (^O^) / 」

救急車っていっても、運転席は普通の乗用車。そんなに喜んでもらえるとは思いませんでしたが、先生は嬉しそうです。

ウチに寄贈された「救急車」の運転席に座ってもらい、「寄贈救急車」を受取に來ていた職員がカメラ持っていたので、拝借してパチリ！先生の蔓延の笑みです。

運転席に座って先生はしゃぎ過ぎ～(>_<)

(あの～、そろそろ降りてもらっていいですか？)

次回、「……………」次回までに考えます。

ガンバレ、消防音楽隊！（その65）2004・12月更新分

平成8年も、「大阪の消防大賞」発表会で大阪府下消防音楽隊合同演奏が行われる事になりました。例によって、各消防音楽隊から選抜された音楽隊員達で、合同練習をします。

今回、結構久しぶりに私も出る事になってしまいました(^_^)

合同演奏の母体となる大阪市消防音楽隊員の皆さんとはもう既にお馴染みなのですが、他の消防本部から来た同じパートの音楽隊員とは「初対面」。

いつも暴れている「会議」には、音楽隊の管理だけで実際には演奏しないエライさんと、合同演奏には出演しない人がほとんどなので、いくら「会議」で顔が売れていても、そして以前は毎年出ていたのにならぬ、このメンツでは、「無名の新人」状態です。

こちらから、

「よろしく。」

と、挨拶しても、

「ハー、どうも。」

って感じしか返ってきません。（オイオイ、挨拶はチャントしようよ。）

そんな時間を過ごしていると、大阪市消防音楽隊の方から、

「ほな、パート決めまひょか～。ドラムしはりまっか？」

なぜか一番に尋ねてくれます。（今までの事で、気を使わせてるのかも。）

「今回は、新しい方にお任せしようと思うので、先に他の方に決めてもらって下さい。」

「そうでっか～。ほな、先に訊いてきまっさ～。」

（今まで何回も出てる事だし、「いいとこ」は譲って、今回は「脇役」でいいや。）

他の全員の希望を訊いて、大阪市の方が再び、

「どうしはりまっか？」

「何か余ってますか？」

「マーチの小太鼓と、あとは「小物」ですわ。」

「じゃ、それでいいです。」

「ホンマに、それでよろしいんか？」

「いいですよ。今回は「脇役」でいいです。」

「ほな、これで決まりっちゅう事で。」

まー、練習しなくてもいいから楽は楽ですが、全然おもしろ味がありません（-_-）

合同練習時間でも、希望通りの楽器を担当している他本部の音楽隊員達はイ

キイキとした表情です。それに比べこちらは刺激が全くなって、「よし、頑張ろう！」って気持ちになりません。(つまらん！まったくおもしろくない！)

逆に苦痛にさえ感じてしまいます。

(ちょっと、自分に無理しちゃったかな？)

でも、もう決まった事ですから仕方ありません。

脱力で1回目の合同練習終了。(あと2回もあるんだよなあ~(>_<))

合同練習自体は、2週間程度間隔を空けて行われ、各自で次の練習までに仕上げて来るって言う事になっています。

仕上げるモノがないのもツライです。じゃ、完璧なのか？って訊かれたらそうではないのですが……。

合同練習も2回目、3回目となると、ある程度話す相手とか決まってきます。今回は、私は「脇役」で楽曲上もあまり重要ではありません。担当する「マーチ」も緞帳が上がる時に合わせて演奏する短い曲ですので、食事の「前菜的扱い」です。練習時間もメインの曲にたくさん時間が使われます。その曲では「小物」の担当です。こうなってくると、私が居ても居なくても影響が殆どないので、演奏上の会話もなく、しかも「無名の新人」状態ですので、必然的に存在自体が忘れられてしまいます。

他の消防本部から来た同じパートの音楽隊員からの扱いも、非常に軽いと言うか、むしろ軽蔑的な空気をも感じてくる次第です。

(本気になれば黙っちゃいけないんだぞ！でも、今回は許してあげましょう。)

こうなると、余計面白くない(-“-;))

(あー、本番も早く終わればいいのにー。)

と、思いつつ本番当日。

舞台上にスタンバイ。

「とにかくお客さんにだけは、満足してもらえるよう努力しなかつた。」って自分を奮いたたせます。(ガンバレ、集中、集中。)

マーチを演奏しながら、緞帳が上がって行きます。早いテンポでの演奏ですので、あっけなく1曲目終了。次の曲は出番なし。舞台袖に下がります。

3曲目に担当する「小物」は大太鼓。無事終了。

4曲目は「究極の小物」トライアングルです。(みなさんご存じ、あの三角形で叩くとチーンってなる楽器です。)だんだん担当する楽器が小さくなっていきます。

トライアングルと言えども、吹奏楽オリジナル曲やクラシックの曲では、相当神経を使って演奏する楽器ですが、今日はポップスの曲で、曲の最初から最後まで同じパターンでリズムを刻むだけの役目。

それでも、そんなことお客さんには関係ありません。頑張ります。(ガンバレ、

集中、集中、シューチューー。)

大きな拍手と共に合同演奏全曲終了。緞帳が下ります。

ダ~~~~疲れた~~~~。

なんか、いつもの何倍も疲れちゃいました。

演奏後、会場に聴きに来ていた我々の音楽隊員から、

「楽長、ノリノリでトライアングル叩いてたな -。」

と、笑顔で声を掛けられ、更に数倍疲れちゃいました(x_x)

(誰がノリノリやねん (° o° (C=(-_-#)

合同演奏の数週間後、打ち上げを兼ねて、府下消防音楽隊懇親会が恒例となっています。他の消防本部から来ていた同じパートの音楽隊員も一緒になりましたが、相当よそよそしい態度。

(しゃーないわな~。)

この時の人達と再び顔を合わせるのは数年後になってしまいますが、たぶん、後から、自分達の属する各々の音楽隊で、私の事を聞いたんでしょか、あちらから「お辞儀」をしてくれるようになりました。

だから、最初から、あいさつはチャントしましよネ!

(あいさつと返事が出来ない人間は嫌いです。責任転嫁と護身しか考えない人間は大っ嫌いです。)

次回、「 (-_-; 」次回は・・・次回があったら書きます。でも、次回はあるのでしょうか? kasisyo@khf119-osaka.jp

おまけで~す

: こんにちは、消防音楽隊楽長の河井賀文です。

「ガンバレ、消防音楽隊!」は今回で連載65回なんですよ~。5年60回もあっさり通過してしまいました。連載60回記念特別番外編も書いたのですが、すこし微妙な問題を題材にしてしまったので、掲載を迷っているうちに、機会を逃してしまいました、ごめんなさい(>_<)

この「ガンバレ、消防音楽隊!」を、そろそろ **打ち切り** にしてはどうかとの話が
出ています。

どんなモノでも長期に続けると、やはり、不適切な内容や、不快感を与える様な箇所を含む確立が飛躍的に上がってきます。一方、一度「公表された言葉」は見聞きした人の取り方で良くも悪くもなります。強制打ち切りしなければいけない様な事態が発生する前に、自ら幕を引いた方がキレイに終われるのも事実ですね。

そういえば、今まで、調子乗って大幅に脱線した話もイッパイ書きすぎちゃったかも・・・
反省(>_<)

でも、この「ガンバレ・・・」はエピソードや文章表現に相当危なっかしい要素を含んでいるのも事実ですが、毎月毎月更新を楽しみに待っていてくれる方々が大勢いらっしやるからこそ、それを支えとして今も続けて書いております。

これまで大きなトラブルを発生させなかったことは非常にラッキーだったのかもしれませんが。

が、もし、万が一、その方々の中に、ほんの一握りの「悪意の輩」が紛れ込んでいても、こちらは何の防御も出来ません。恣意的な解釈でどうにでも都合のいいようにアレンジされてしまいます。「あくまで仮に」の話ですが、消防音楽隊の業務や私個人を、元々ころよく思っていない人が存在すれば、「恰好の餌食」って感じでしょうか。

まーそんな事態は起こっていませんし、そんな人も居ないでしょう。一度、不快に思った人は二度とアクセスしない事でしょうしネ。

いずれにしても、「自戒」の意味も含めて、今後を考えなければなりません。(よし、考えるぞ　　！でも、眠ってから考えよっと。(_)Z~z~zzzz)

皆さんはどう思われますか？

ご意見、ご感想をメール下さい。【メールは、kasisyo@khf119-osaka.jpまで】

(5年前、「がんばれ、消防音楽隊！」の連載を始めた時に、いつ、ふいに、終わりが来てもいいように「最終回」は書いてあります。始める時には終わりを考えておかないとネ。)

さてさて、年内最後(今回最後?)の掲載ですので・・・、
ジャジャン!! 年末恒例(?)この一年間の活動をサラッと振り返るコ～ナ～～～

(誰も何もいわないのでこのままの名前で。)

出演内容

1月11日(日)	平成16年消防出初式
1月12日(月) 成人の日	平成16年羽曳野市成人式
3月21日(日)	南阪奈道路開通記念ウォーク
3月26日(金)	中河内地区防災講演会
3月28日(日)	南阪奈道路開通式典
5月5日(水) 子供の日	はびきの市民フェスティバル
6月6日(日)	藤井寺市民運動会
7月17日(土)	第19回「大阪の消防大賞」発表会
8月8日(日)	大阪府消防協会中河内地区支部総合訓練
8月22日(日)	大阪府消防協会南河内地区支部総合訓練
9月5日(日)	大阪府消防大会

9月19日(日) 藤井寺市民まつり
11月6日(土) 消防 Festa 2004 in かしわら

累計出演回数 192回

練習回数

毎週水曜日午前中及び強化練習 1回3時間 51回

この1年間の出演で使用した曲目

パイレーツ・オブ・ザ・カリビアン / 君こそスターだ / シンクロBONBAYE / アンパンマン・マーチ / 美しく燃える森 / カナリア鳴く空 / めくれたオレンジ / 川の流れるように / 雷神 / 名探偵「コナン」のメイン・テーマ / 「ミッション：インポッシブル」のテーマ / 76本のトロンボーン / 錨を上げて / 慰霊の歌 / 君が代 / アフリカン・シンフォニー / 得賞歌(勇者は帰りぬ) / バック・ドラフト / ドラえもん / スリー・ファンファーレ / 「ルパン 世」のテーマ / 風になりたい /

今年は隊員のリクエストを採用しました(曲目中の青文字)が!、以後に大きく影響する程「スカ」に大量の練習時間を喰われてしまいました。「スカ=裏打ち」が全く出来ません!いつのまにやら表(頭)打ち(*_*)「スカ」が逆になっちゃうよ!!(ったくもう!ナニやってんだか(-;-))

今年も平日は一回だけ、土日祝日ばかり(92%)の出演です。

そして、今年も担当した**消防 Festa**では、昨年と同じように日焼けしそうな好天に恵まれ、実に4万1000人の方々が来てくれました。

「スタンプ・ラリー用紙」は昨年の2倍の2000枚用意しましたが、40分でなくなり、これも昨年の2倍の4000枚用意した「アンケート付き抽選券」もあっという間に完了!現在は昨年の倍になったアンケートをコツコツ集計中であります。現在1000枚を集計した途中結果ですが、96.7%が「継続開催すべき」との回答を頂いております。

そして、**消防 Festa**3日間の来場者数は、とうとう10万人を突破してしまいました。

ご来場頂いた10万人全ての方に心からありがとう~~

~! \ (^O^) /

消防 Festaを見たある業界の方から、「この企画は売れますよ。」と言われました。(ホンマ!?)また、別の方からは、

「こればけの人数のスタッフ全員が、自分の持ち場、各自の役割をハッキリ認識しているイベントなんて、そうそうありませんヨ。」

と言ってくれました。

(実際、アンケートの中に、「スタッフの人が、ちいさな事でも、とても親切に対応してくれた。」と言う答えが何十枚もありました。)

「またまたー、ヨイショしてるんじゃないの？」

「いえいえ、本当です。たぶん企画と指示がシッカリしているからだと思います。」

「お役所イベントはおもしろいモノが殆どないでしょ？それを白紙しにして、ゼロから考えました。会場のジオラマも作って、企画し、説明もしてますから・・・。」

「それがスゴイんです。河井さんはイメージを「映像」として見えているからでしょう。考えに全くブレがないんです。」

「失敗は許されないの、必死ですもん。中心スタッフは十分理解して取り組んでますよ。」

「それが、会場全体に行き渡っているんです。来場者にも伝わっているはず。それがスゴイ。」

「そんな言われたら嬉しいなあ。もしかして私は独立して企画会社やって行ける？」

「独立なら。でも、社員としてはどうも・・・。」

「エッ、なんで？」

「河井さん、『こうだ！』と思ったら、人の言う事聞きませんもん。部下にもったら大変です。」

「ゲッ。」

「見てて分かります。」

「もしかして、それが言いたかったん？」

「ハハハッ。」

なんて話もありました。

会場には、開催案内も出してないのに、FM局とケーブルTVが取材に来られてました。

(放送業界の人って一見してスグ分かりますね。ビックリしましたけど。)

あれだけの事をしたのに、会場周辺の方々には大変ご迷惑をおかけしたはずなのに、この3回とも、当日苦情はゼロ件。皆様のご理解、ご協力に本当に感謝しております。

合同演奏してくれた柏原中学校吹奏楽部の皆さん、顧問の先生のは大変お世話になりました。楽しかったです。柏原中学校の皆さん、ありがとう。

しかし来年以降の事は全くなにも決まっていません。数々の伝説と共に、このまま**消防 Festa** は封印されてしまう事になりそうです。

市民の方々にも、消防にも、音楽隊にも、3年間の蓄積が無駄にならないように願うばかりです。(消防Festaへのお便りも、kasisyo@khf119-osaka.jpへ)

回転扉事故、冬ソナ、リコール隠し、道警裏金、県警カラ出張、牛井、自衛隊派遣、マロンブランド、銀シャリ、武装スリ集団、デューク、自己責任、サギブリ、いかりや長助、半年前卵、ワルド・レガン、未納三兄弟、ゴリエ、iPod、ハルウララ、AIDA、学歴詐称、kawaii、なでしこジャパン、メダルラッシュ、女ピン芸人、温泉疑惑、伝説の男、芦屋雁之助、おねえキャラ、ミストサウナ、NEET、たかが選手、新規参入、1リーグ制議論、古田会長、

社会保険庁、顧客情報流出、華氏 911、超熱帯夜、blast !、あつみ、白焼き、サンバ、ABBA、関空 10 歳、テラコッタ肌、262 本、愛と藍、韓流、新選組、モハマド君、青いバラ、ドラえもん、台風+熊+台風+熊+地震、認知障害、豆乳、友食、にがり、レ・チャルズ、米軍ヘリ墜落、学校占拠、ジャズやるべ、ハウル、領海侵犯、第三のビール、DS、ギター侍、ジェンキンスさん、遺骨別人、アラファト議長、フィッシング、盗作、日本人 MBA、西、Deepnet Explorer、子供の安全、受信料支払拒否、キックバック、年金改正、電車男、12 月夏日、等身大像 3 日で廃棄、大学運動部員逮捕、「災」、双子座流星群、定率減税、10 億円寄付、1 億円献金疑惑、圧縮陳列

「隠蔽体質」、「不正」、「不信感」、「ナニを信じていいのか分からない。」と言った感じの一年でした。

そして今年もまた、とても沢山の幼い子供の命が奪われてしまいました。

今の日本は「平和」です。でもその「平和」は、歪み、朽ち落ちそうな、「病んだ平和」のように感じて仕方ないです。読んでくださる方がいらっしゃる皆さんはどう思われますか？

今年も一年間、高久先生、小田先生、生川先生、辻本先生、伊勢先生、岡田先生、高見先生お世話になりました。いつも無理ばかりお願いして済みません。これからも、いつまでも、ず~~~~と宜しくお願い致します。

高見先生、8 月の「世界バトントワリング選手権大阪大会」成功おめでとうございます。

初めて「国際競技会」と言うモノに行きました。「ニッポン、チャチャチャ」も初めてしました。とにかく空気に圧倒されてしまいました。大変お疲れさまでした。

そして、音楽隊を「陰」となってバックアップしてくれている大勢の皆さん、いつもありがとうございます。本当に「お蔭さま」の意味と存在を毎日感じ、有り難く思っております。どうか、これからも暖かく支えて下さいますようお願い致します。

この HP、楽長のコーナー「ガンバレ、消防音楽隊！」に今年もたくさんの応援を頂きました。ありがとうございました。皆さんの励ましの「お話」や「メール」とも喜んでおります。もっともっとご意見頂けましたら嬉しいです。

この「ガンバレ、消防音楽隊！」は、私が原稿を書き、ホームページ検討会議でチェックをされ、内容を吟味された後に、更新の決済がされ、掲載されています。

原稿を提出した段階で、既に、私の手を離れてしまって、あとは、事務的に処理されて行きます。

つまり、作り出すのは私ですが、育ててくれたのは、関係者と大勢の読者の皆さんなのです。

「読んでくださる方がいらっしゃる皆さんがいらっしゃる限り、応援を頂いている限り、連載を続けて行きたいと思っております。」と去年は書きました。が、今は微妙な流れである事も事実です。

年末のご挨拶もこれで最後かもしれませんね。

私個人的には、今後を考えさせられる様々な出来事があった一年でした。
次の扉に続く道はまだ遠い事も感じた一年です。

それでは皆さん、

MERRY X'MAS & HAPPY NEW YEAR !

KASHIWARA HABIKINO FUJIIDERA FIRE PROTECTION DISTRICT

FIRE MAN'S BAND Conductor & Drum Major

Wishing you the best

FIRE CAPTAIN YOSHIFUMI KAWAI

ご意見、ご感想は、kasisyo@khf119-osaka.jpまでメール下さいますようお願い致します。m(_ _)m

ガンバレ、消防音楽隊！（その66）2005・1月更新分

まずはじめに、

2004年12月26日午前8時（日本時間同10時）ごろ、インドネシアのスマトラ島沖で、マグニチュード（M）9の巨大地震が発生、大規模な津波などによって周辺諸国で多くの人的被害が発生し、犠牲総数が15万人を上まわったことが報じられています。今後もさらに増え20万人に達する可能性があるとも言われております。

犠牲者の方々のご冥福をお祈り申し上げます。

ここからは、いつもの「ガンバレ、消防音楽隊！」（第66話）に戻って、







あけまして おめでとう ございます。

本年も変わらずご指導賜りますようお願い申し上げます



昨年12月は異常な暖かさでしたが、やはり冬は寒い(>_<)
暑いのも苦手ですが、寒いのはもっと苦手です。
私は、どちらかと敢えて言えば、「秋」が好きです。

 やその風景 、そして焼けるような夕陽  が好きです。

(冬の星空も好きです！冷たく透き通った空に輝く星  を見るのは気持ちいいです。
でも、寒いから長時間は無理です。風邪ひいてしまいます。)

しかし、日頃の忙しさに、見られない事が多いですけどね。

みなさんはどの季節が好きですか？

更新日が20日なので、少々気恥ずかしいですが、でも、年明けてから初めての更新です
ので、少し控えめに、改めてご挨拶申し上げます。

(初めて「クリップアート」って機能を使いました。便利ですね。)

毎年、同じ季節を同じように迎え、同じようにご挨拶出来る事って、素晴らしいと思
います。願わくば、今後も変わることなく続ける事が出来ればいいのですが・・・。

冒頭にも触れましたが、スマトラ島沖地震・津波は甚大な被害を及ぼしました。今年
は阪神・淡路大震災から10年になります。国内でも災害による悲劇がたくさんあります。

数多くの悲劇をこれ以上聞きたくない心境になってしまいます。

ありきたりな言葉ですが、自然災害の怖さと人間の無力さを思い知らされます。

さて、更新されたって事は、今月は、無事、連載を続出来たって事ですね。

(続けてていいんだよね?????)

よ～～し、頑張んべー！

平成7年の春に羽曳野市の方から出演依頼に來られました。

(アポ取って来てよ!(-;-))

「ん?この季節ってなんかあったっけ?」

市民祭りも終わってるし、夏にはイベントも無いようだし……。まー、いつもの「突然イベント」かな?ってくらいにしか考えず、話を聞くと、

「教育委員会です。」

「はい?成人式の件ですか?まだ春ですよ、ずっと先ですよね?(^_^;)」

「今日は『成人式』の話ではなく、再来年に大阪で国体が開かれる事になりました。」

「再来年ですか?」(オイオイもっと先やんけ(-;-))

「はい、平成9年の秋です。」

「(ハイハイ)じゃ、その時に話ししましょうね。(ほな、さいなら)」(早すぎや!そんな先だと忘れてまうやん。)

立ち上がろうとすると、

「河井さん、あの、まだ続きが……。」

「続きがあるんですか?」(イヤな感じ-(-_-#)

「でね、来年の秋にそのリハーサルがあるんです。」

「リハですか?なんか大層ですね~。」(それでも1年半後)

「はい。それにも出て欲しいんですよ。」

「はぁ?リハでしょ?リハですよ?リハに音楽隊が必要なんですか-?」

「リハーサルと言っても、翌年の本番と同じように競技会を開くんです。」

「っへ~。(無駄な事すんねんなぁ)。そう言うモノなんですか?」

「そうらしんですわ-。正式には『プレ大会』って事です。」

「と、言う事は、音楽隊が『プレ大会』に出るって事は、『本チャン大会』も出ると。」

「そうですねん。2年連続で。」

「2年連続で同じ事するんですか?」

「会場は変わるんですけど……。」

(内容が分かりません。説明している人も良く分かってないような、要領を得ない感じですよ。)

「会場はどこでもいいんです。内容は?」

「まだなにも……。」

「では、我々の演奏内容はどうなります?指定の曲とかもあるんでしょ?」

「それもまだ全然。」

「週一回3時間しか練習出来ない上に他の出演もありますので。分かり次第逐一連絡下さ

「来年と、再来年の話でしょ？その時考えましょ。」

隊員から突っ込まれてしまいました。(そりゃそうだ。)

その後しばらくナニも無かったのですが、

説明に来られてた市の事務局から、

「国体で使う曲があるらしいので譜面手配しました。」

と電話連絡があった二日後、段ボール箱にギッシリ詰まった譜面が送られて来ました。

(え！一曲ちゃうの～。メインテーマ、行進曲、ファンファーレ曲、ドラムマーチ・・・

いったい何曲あんなねん(>_<))

タイミング良くまた電話が、

「譜面受取ました。こんなにイッパイ。どうするんですか～？」

「着きましたか。我々『音楽』の事は分からないのでお任せします。」

「お任せって言われても(-;-)」

「それとね、『コーラス』を頼んでありますねん。」

「は～？こーらす～？」(曲も決まってないのに、なに言うてんねん！)

「はい、ママさんコーラス。」

「ママさんこーらす～～～？」


続きはどうしますん？読み切りにした方がいいのかな？

よう分からん(-_-)

次回「コーラスの・・・」です。

オマケ：



(このイラスト気に入ってしまいました。(^^ゞ )

【ご意見、ご感想をkasisyo@khf119-osaka.jpまでメールお願いいたします。応援メールがないと連載が終わる事になっちゃいます。待ってまーす。】

ガンバレ、消防音楽隊！（その67）2005・2月更新分

「なみはや国体」や「プレ大会」の前に、絶対超えなければならない、とても大きなハードルがありました。

昭和60年6月から隊員を数人づつ個別に集めて準備し、昭和61年4月に正式発足し、毎週練習を続ける我が消防音楽隊ですが、当時からの10年間、音楽隊出演以外の活動はすべてボランティア扱いで練習を行ってきました。

好きな者達が自主的に集まって活動する同好会やクラブであればそれで良いのですが、「消防音楽隊」は職務命令で仕事として運営されている訳ですから、実態を伴わない状態が10年間続いているということです。

消防のみならず、皇宮警察音楽隊や各都道府県の警察、自衛隊など（他にもあるかも知れませんが）、全国に「音楽隊」と名の付く団体は「仕事」として日常業務内で訓練し、演奏業務にあたっています。

逆に、同好会やクラブが（強制の下）業務で活動する事はマズありません。

訓練はボランティアで、出演には強制。我々は、これに10年間耐えてきました。（私のことですので、もちろん、ただ無言で耐えてきた訳ではありませんが・・・）ボランティアで「休日に出て来い。」「もっと真剣に練習しろ。」などと指導しても、矛盾に矛盾を重ね塗ってだけで、根本が歪んでいるのに効果がでる訳が無いです。（それでも、やらせなくてはいけない私は、音楽隊では悪者、職場は孤立、上層部からはやっかい者って感じです。今もあまり変わりませんけどね(=_=)）なぜ、こんな状態を投げ出さなかったのかと思われるでしょうが、そういう「損な」性格なんです。多分、現在残っている10名の「オリジナル・メンバー」達も。（要領に長けた者はさっさと音楽隊を辞めていきました。）

どこの世界でもある事ですが、誰も自分が可愛いです。上にたて突く者はいません。当事者である音楽隊員にしても、理不尽だと知っている幹部職員にしても、何も言わず、強い相手にはただ従い、弱い相手には不満をぶつけます。本当に不満をぶつけ、爆発したいのは、間にいる者のはずですが。

しかし、私が黙っていては何も変わりません。10年目の機会です。これ以上はもう無理、限界です。なんと言われようが力づくでも「正常な状態」にしなければいけません。（この時は、残念ですが、「楽長更迭」があっても引き下がらないつもりでした。相打ちで「音楽隊解散」も辞さないつもりで。）

「試算した数字」を持って、直談判です。ちょっと、詳しくは書けなくって申し訳ないの

ですが、実は（音楽隊解散以上の）決定的な「切り札」を（本当は出したくなかったのですが）出して、（私の形相のせいもあったのでしょうか、）「了承」を獲得しました。これで、平成8年4月1日から、初めて「仕事」と認められた消防音楽隊になりました。（って、仕事として強制するのですから、本当はこれが普通なのです。）普通になるのに10年

も無駄な時間を使ってしまいました。バカげたお話です。

次に、これは先程の内容に比べると、深刻な問題ではないのですが、更にもう一つ。多くの割合で、「記念演奏会」を行っている「音楽隊」があります。ウチの場合は「発足10周年記念演奏会」って事になります。費用自体は、ゴージャス&パブリーにすればいくらかでも多く、チープにすれば会場費を含め10~20万円程度で出来るでしょう。広報効果と音楽隊の演奏能力を飛躍的に向上させる効果があります。消防組合の構成市関係職員達は、「必要な事」と認識してくれました。ただし、最低費用で行うと言う条件で。次は3つの市長と各市の助役の前で説明し、了承されなければなりません。

「目的と効果ははっきりしてるんやから、考えてるようにしたらどうや。」

「市が3つあるんやから、その費用内で各市1回づつ、3回しろ。(つまり1回当たり3分の1の費用で同じ事を3回連続。)」

「なんで、お前、そんなもんせなあかんのじゃ~！」

これが、お三人の市長のそれぞれのお答えでした。(既に現役ではない方が多いですが。) これも、これ以上詳しく書けないので、申し訳ないのですが、この時のやり取りがあまりにも酷かったので、感情が抑えられなくなりそうでした。(我慢してたのですが、その時使っていたシャープペンシルを右手で握って折ってしまいました。後で思うとモットイナイです(+_+))結果的には「記念演奏会は無し」って言う事になりました。(シャープペンシルだけ物的損失です。感情的には・・・ですけど。(-_-))

ともかく、もう以前のような、命令・強制であって仕事ではない、曖昧な存在には戻りたくはありません。音楽隊員に今まで以上の確たる自覚と、自信と、責任感を植え付けなければいけません。他から非難される隙が出来ないように、私の締め付けも強くなります。ダラダラした練習も許しません。何事もメリハリが大切。下手でも一生懸命努力する。与えられた仕事として音楽隊業務にあたる。毅然とした空気が必要です。

こんな状況の時に、

「ママさんコーラスで指揮をしている者ですが・・・。」と電話がありました。

(あっ！忘れてた )

次回こそ「コーラスの・・・」です。 

【ご意見、ご感想はkasisyo@khf119-osaka.jpまでメールお願いいたします。待ってまーす。】



ガンバレ、消防音楽隊！(その67) 2005・2月更新分

「なみはや国体」や「プレ大会」の前に、絶対超えなければならない、とても大きなハードルがありました。

昭和60年6月から隊員を数人ずつ個別に集めて準備し、昭和61年4月に正式発足し、毎週練習を続ける我が消防音楽隊ですが、当時からの10年間、音楽隊出演以外の活動はすべてボランティア扱いで練習を行ってきました。

好きな者達が自主的に集まって活動する同好会やクラブであればそれで良いのですが、「消防音楽隊」は職務命令で仕事として運営されている訳ですから、実態を伴わない状態が10年間続いているということです。

消防のみならず、皇宮警察音楽隊や各都道府県の警察、自衛隊など（他にもあるかも知れませんが）、全国に「音楽隊」と名の付く団体は「仕事」として日常業務内で訓練し、演奏業務にあたっています。

逆に、同好会やクラブが（強制の下）業務で活動する事はマズありません。

訓練はボランティアで、出演には強制。我々は、これに10年間耐えてきました。（私のことですので、もちろん、ただ無言で耐えてきた訳ではありませんが・・・。）ボランティアで「休日に出て来い。」「もっと真剣に練習しろ。」などと指導しても、矛盾に矛盾を重ね塗ってだけで、根本が歪んでいるのに効果がでる訳が無いです。（それでも、やらせなくてはいけない私は、音楽隊では悪者、職場は孤立、上層部からはやっかい者って感じです。今も大して変わりませんがね(=_=)）なぜ、こんな状態を投げ出さなかったのかと思われるでしょうが、そういう「損な」性格なんです。多分、現在残っている10名の「オリジナル・メンバー」達も。（『要領』に長けた者はさっさと音楽隊を辞めていきました。）

どこの世界でもある事ですが、誰も自分が可愛いです。上にたて突く者はいません。当事者である音楽隊員にしても、理不尽だと知っている幹部職員にしても、何も言わず、強い相手にはただ従い、弱い相手には不満をぶつけます。本当に不満をぶつけ、爆発したいのは、間にいる者のはずですが。

しかし、私が黙っていても何も変わりません。10年目の機会です。これ以上はもう無理、限界です。なんと言われようが力づくでも「正常な状態」にしなければいけません。（この時は、残念ですが、「楽長更迭」があっても引き下がらないつもりでした。相打ちで「音楽隊解散」も辞さないつもりで。）

「試算した数字」を持って、直談判です。ちょっと、詳しくは書けなくて申し訳ないの

ですが、実は（音楽隊解散以上の）決定的な「切り札」を（本当は出したくなかったのですが）出して、（私の形相のせいもあったのでしょうか、）「了承」を獲得しました。これで、平成8年4月1日から、初めて「仕事」と認められた消防音楽隊になりました。（って、仕事として強制するのですから、本当はこれが普通なのです。）普通になるのに10年も無駄な時間を使ってしまいました。バカげたお話です。

次に、これは先程の内容に比べると、深刻な問題ではないのですが、更にもう一つ。多くの割合で、「記念演奏会」を行っている「音楽隊」があります。ウチの場合は「発足10周年記念演奏会」って事になります。費用自体は、ゴージャス&パブリーにすればいくらかでも多く、チープにすれば会場費を含め10~20万円程度で出来るでしょう。広報効果と音楽隊の演奏能力を飛躍的に向上させる効果があります。消防組合の構成市関係職員達は、「必要な事」と認識してくれました。ただし、最低費用で行うと言う条件で。次は3つの市長と各市の助役の前で説明し、了承されなければなりません。

市長達との話も、詳しく書けないので申し訳ないのですが、この時のやり取りがあまりにも酷かったので、感情が抑えられなくなりそうでした。(我慢はしてたのですが、その時使っていたシャープペンシルを右手で握って折ってしまいました。(+_+))結果的には「記念演奏会は無し」って言う事になりました。(なんだそりゃ。シャープペンシルだけ物的損失です。感情的には・・・ですけど。(-_-))

ともかく、もう以前のような、命令・強制であって仕事ではない、曖昧な存在には戻りたくはありません。音楽隊員に今まで以上の確たる自覚と、自信と、責任感を植え付けなければいけません。他から非難される隙が出来ないように、私の締め付けも強くなります。ダラダラした練習も許しません。何事もメリハリが大切。下手でも一生懸命努力する。与えられた仕事として音楽隊業務にあたる。毅然とした空気が必要です。

こんな状況の時に、

「ママさんコーラスで指揮をしている者ですが・・・。」と電話がありました。

(あっ！忘れてた)

挨拶を交わして、消防本部と先方の自宅が近所って事もあり、早速その日にお会いする事になりました。

恰幅が良く人当たりの良い、温厚そうな初老の紳士って言う感じの方でした。

改めてご挨拶。

「・・・で、何か市役所の方から聞いておられますか？」

「いいえ、『音楽の事はわからないので我々に任せる』と言うことしか。」

「同じ内容ですね、どうしましょうか？」

いろいろお話して、結局『WE CAN CHANGE THE WORLD』と言う『なみはや国体』のテーマソングと『羽曳野市歌』を音楽隊とコーラスの合同で演奏する事になりました。本番までには合同練習もしなければなりません。

指揮者は二人も要りません。合同の演奏では指揮をお願いするつもりだと言う事と『羽曳野市歌』の楽譜の手配をお願いしてこの日は分かれ、早速『WE CAN CHANGE THE WORLD』の譜面を音楽隊員達に配布して練習です。

「コーラスとの合同演奏」以外に、入場行進、受賞、国歌の演奏があります。

やっと見えてきた「依頼内容」と具体的な曲名を挙げて、隊員達に説明します。

「そんなイッパイ曲でけへんわ~。」(まだ甘い事言ってます。)

「曲数は少し多いけど、消防出初式に使う曲をほぼ同じだからどうにかなるでしょ。」

「新曲あるやん。」

「2曲だけです。」

「指揮者は楽長？」

「いい機会なので、合同演奏は先方の指揮者に振ってもらつつもりです。」

「え～、指揮者変わるん？」

「外部の全く違う人の指揮で演奏するのも勉強です。」

すると一同口々に

「どうせ、指揮見てへんし。」


「誰が立ってても一緒、一緒。」

「オイラ関係ないわー、アハハハ。」

「おっても、おらんでも、変わらんでー。」

「そりゃ、そうや。ギャハハハハ。」

こ、い、つ、ら、・・・・(；ー_ー)

次回「市歌&テーマソング」です。

【ご意見、ご感想はkasisyo@khf119-osaka.jpまでメールお願いいたします。待ってまーす。】

ガンバレ、消防音楽隊！（その68）2005・3月更新分

「ママさんコーラスの指揮者」の方との話は非常にスムーズでしたが、「国体」の件に引き続き、「ママさんコーラス」どころか、「コーラス」についての知識もゼロ(・・;)私には全く知らない世界。同じ「音楽」でも種類が違っていると知らないことばかりです。仮に同じ「吹奏楽」とかでも、他の「楽器」の事は詳しく知らないし。「音楽」って言う分類は、テレビニュースの中で扱われる「スポーツ」って言う分類と同じくらい多くの分野を指す言葉なんだなあって改めて感じました。

今回共演させて頂く「ママさんコーラス」については、私が知識なくても支障ないですから、調べもしていませんでした。

「『ママさんコーラス』って言うから、女性ばかりなのですよ？」

「そうなんですけど、でも、今回は『男性』も入れてみようと思っているんです。」

「『コーラス』はいつ練習されているんですか？」

「それぞれ、バラバラですよ。」

「エッ？それぞれって？」

「はい、それぞれですよ。」

「それって、一つの団体じゃないんですね？」

「そうです。いくつもある団体を集めて『連合』で。」

「へえ～、って、その練習は合同でしないんですか？」

「それが出来そうにないので、私があちこちを回って行こうと思っとるんですわ。はははっ」

「そんな方法で、大丈夫なんですか～？」

「大丈夫ですよ。」

(音楽隊とは合同練習しなきゃ不安なんだろうなあ(^_^))

「それと、『羽曳野市歌』の譜面は手配出来そうですか？」

「吹奏楽向けに編曲を頼んであります。」

「お手数をおかけしますがヨロシクお願いします。」

(あまりいじらないで、素直な編曲してほしいんだけどなあ。)

さて、『なみはや国体テーマソング WE CAN CHANGE THE WORLD』のオリジナルCDが送られてきました。(どこからだったけかな？大会本部だったかな？)歌詞カードとか小さいポスターも同封されています。

とにかく音楽隊員全員で一緒に聴きます。

ポップス系にオーケストラの伴奏が入ったボーカル曲です。

「ふ～ん、無難にまとまった、キレイな曲やなあ。」

と言うと、

「譜面と全く同じでないと分かんわ～。」

(言うと思った(>_<))

「どんな曲かイメージ分かればいいんです！」

「この譜面とおりのCDないの？」

「そんなありません(-_-;)」

「譜面見て演奏すなのに、そのCDないなんてオカシイがなあ。」(なんで逆ギレやねん。)

「あのなあ・・・(+_+)」

私の「指揮譜」(指揮者用の譜面)で隊員ひとりひとりの譜面が、今のCDの曲のどの部分か伝えますが、

「あ -、分からんわ (-_-;)」

(おいおい、分かってくれよ~(T_T))


で、挙句の果てに

「ホンマに『これ』に出なアキマセンの？」

で終わり。(悪あがきです。)

話が少しそれますが(いつもの事ですけど)、学生を中心に『吹奏楽人口』は相当数に上ると思います。でも、実際に『吹奏楽』を聴く事が出来る音楽ソースってとても限られていると感じます。「演奏としての音楽」と「マーケットとしての音楽」の乖離なのでしょうね。市場原理と言われればそれまでですが、どうも釈然としません。一般大衆に向けたクラシックや映画音楽はオーケストラ系が中心、ポップス系は今やコンピューターミュージックが当り前。でも違うマーケットとして、もう少し『吹奏楽』がフューチャーされてもいいと思うのですが。購買層として市場認知されにくいのでしょうか？もしくは市場規模が小さいのでしょうかね？それに比べると、コンサートが開かれる頻度も高いみたいですし、CDの売り場面積もちゃんと確保されていますから、オーケストラは根強い人気ですね。購買層がしっかり定着している表れでしょう。

(連続公演「**blast!**」~「ドラム・ライン」~「スィング・ガールズ」等のヒットは、

プラス人間には久々に痛快でしたね。  この方向でもっとヒット作が出てきますように。テレビドラマ化でもされたら弾みもつくんだけどね。某TV番組の「吹奏楽部特集」放送直後には、私の周りの反応はかなりでしたよ。) 皆さんはどう感じられているでしょう？(あんまり関係ないかな(^_^;) 私の好きなインストメンタルの曲などは、売り場面積どころか、コーナー自体が無くなってたりして、CDを手に入れるのも一苦労って感じます。)

さて、新曲もポチポチ練習(「解説」と言った方が良くかも。)しながら、先に入場行進で使う曲に力を入れます。数年間使い続けている行進曲をまた使うのですが(必殺使い回し) いままでいい加減に演奏してきたので、もう一度「イチ」からおさらいしなおさなければなりません。(何年もやってる曲なのですが、リズムや音程をいい加減なまま覚えてた

りしてますので。)

最初、隊員達は面倒くさそうに、

「なんで今更、昔からの曲せなアカンねん(・へ・)」

って感じでした。けど、細かく丁寧に練習していくにつれて、今までとは全く違う演奏になって行きました。一番驚いたのは、音楽隊の先生。

久々に演奏を聴いて、

「一体、どうなってるんですか!？」

と。

(その時はそこそこの演奏出来たんですが、忘れるのは「のぞみ」並みの早さです。びゅん(*_*)モッタイナイねんなぁ。)

では、その勢いでテーマソングを……。また元のとおりのブーブーって演奏に戻ってしまいます。

(そんなに難解な曲ではないのですが、多分、「記憶」で演奏しているんでしょうね。譜面は大まかな「ガイド」程度にしか眺めていないのだと思います。

今でもそうですが、「ドレミ」のフリガナを書かないと演奏出来ない隊員がたくさんいます。フリガナを書くとフリガナだけを追ってしまい、譜面上の膨大な情報を全く見なくなるので、演奏がとても粗雑になります。譜面を見て、即座に「読める」ようにまではならなくていいのですが、どれだけ時間がかかっても、たとえ超～スローテンポであっても、一曲を最初から最後まで自力で演奏出来る程度の「**努力の形跡**」が欲しいものです。)

行進曲は上手にできたのに、新しい「テーマ」曲は、ブ-ブ-ブ-ってホンマの話?と思われるでしょうが、これがホンマなんですよ~(^.^)

未経験者が週1回3時間程度の練習枠では、これが限界なのでしょうかね-。

しかも、このころから「**自分には才能ないから。」「素質ない。」「センスないからアカンねん。」**と言う言い訳が隊員から数多く聞かれるようになりました。やっとな「業務・仕事」として「普通」になった音楽隊業務ですが、隊員の中にはジワリ、ジワリと、今までの「**甘え**」が通じない事を肌で感じ、「**新しい逃げ場**」が必要になり自然に生まれてきたように思います。

日常でも良く使われる「才能」と言う言葉は、どう言う意味でしょうか?

私の思い描く『才能』とは、「弛まぬ**努力の果て**に生じる個人差」の事だと思っています。そして『素質』は「**個体差**」、「**センス**」は「**刺激に対する瞬発力、閃き**」と言う認識です。(どれも加齢と共に鈍化はしますが)全て、努力で大部分がカバーされ、磨かれると思っています。

伸びのカーブ(右上がりの角度)が素質で、カーブの限界点(頂点)が才能と言えれば分かり易いでしょうか?(私の『**感覚**』であって、どうでもいい事なんですけどネ(^.^)

因みに、手元にある『**広辞苑 第四版**』(新村 出編、(株)岩波書店、1997)では、「**才能**:才知と能力。ある個人の一定の素質、または訓練によって得られた能力」「**素質**:本来具有する性質。個人が生まれ

つき持っていて、性格や能力などのもとなる心的傾向。特殊な能力などについていう。」「センス:物事の微妙な感じ或いは意味をさとする働き。思慮、分別。」更に「具有;そなえもつこと。そなえていること。」「才知:才と知。心のはたらき。」「思慮:注意深く考え思ふこと。思いめぐらした考え。おもんばかり。」「本来:ありのままであること。もともと。はじめから。元来。当然そうあるべきこと。あたりまえ。」「一定:あらかじめ決まっていること。程度を漠然と指し「十分ではないがそれなりの」の意を表す。」と、あります。

と言う事は...

「自分には才能ないから。」と言う意味は、「自分には、個人の十分ではないがそれなりに当然そうあるべき、あたりまえにそなえている、個人が生まれつき持っていてはずの、性格や能力などのもとなる心的傾向や特殊な能力、又は訓練によって得られた能力がないです。」と、言う事ですか???(って、人に訊くな!!スミマセン余計に分らんようになってしまったもので+_+)

「センスがない。」は、「物事の微妙な感じ或いは意味をさとする働き、思慮、分別がない。」と言う事ですか???

(ふ~ん、分ったような分らんような、ゴマかされてるような...。)

楽器でも、勉強でも、仕事でも、「あいつはスゴイなあ。」って感心してしまう人って実際居ますよね。今までに幾度か、同じ事をしていても全く伸びが違う人を見ました。自分の方が早く始めて年数も多かったり、明らかに能力が上だったのが、僅かな時間で見事に抜き去られてしまう経験ないですか?そんな時、皆さんはどうしてます?ケースバイケースですよ。言い訳で自分に逃げ道作って、精神的に楽になれる方法とかで、誤魔化しちゃいますよね。私もそうしてると思います。って言うか、それが出来ないと「社会性」って部分で行き詰まってしまうと思います。でもね、時には「負けて悔しい。抜き返してやる!」なんて思う事ないですか?私はありますよ。(結構「負けず嫌い」なのかも(^_^;)

でも、ウチの音楽隊には、他の事には、「根性」とか「意地」と言う言葉や態度を頻繁に使うのに、音楽隊業務にはその「感情」が非常に希薄で「淡白」です。(強いて言えば「皆無」です。)

言いたかったのは、逃げを口にする者ほど、「才能・素質・センスの有無が影響するようないレベルになく、努力そのものをしていない!」と言う現実です。そこに「言い訳」ですから、「そうやね~。」なんて言える訳なく、たまったものじゃありません(>_<)

「それがどうしてん(-_)才能なんかまだ関係ない!」って答えになっちゃいます。

憤慨する隊員もいましたが、「努力もしてないヤツに、才能なんて関係ない。」何度食いついて来ても「関係ないったら関係ない!」と、当時も今でも同じ事を言ってます。

ハッキリ「やる気ないです。」と言う方が余程すっきりしています。

(本当に頑張ってる人はそんな事言ってきませんし、頑張ってる事が伝わってきます。「努力の形跡」が見え感じます。今までの様に、やる気ない者まで面倒見てられません。やる気ないならチャント手続きして辞めてもらいます。)

さてさて、「羽曳野市歌」の楽譜が出来上がってきました。

「ありがとうございます。早速練習に入ります。」

「いや、もうちょっとオブリガート付けたいんで、私が書き加えて来ます。」

(obbligato 伊語: 伴奏を有する独奏または独唱に、さらに別の独奏楽器によって旋律的伴奏をつけること。また、その伴奏。助奏。前出『広辞苑 第四版』より。日常的には、主旋律に対する助奏、副旋律の意で使われてると思います。今回は語彙の説明が多いや(^_^)


と、また持って帰られてしまいました。(それは自慢ですか!? それなら、持って来ないでいいのに(+_+))

2、3週間後、やっと貰えた楽譜は、難しくないのですが、ゴチャゴチャしてて見辛そう。

(これって、イジリ過ぎちゃう?)

次回「コーラス合同練習」です。 

【ご意見、ご感想はkasisyo@khf119-osaka.jpまでメールお願いいたします。最近皆さん反

応ないんすよね〜。正直ちょいつライっす(+o+) 本気で待っております。 】

ガンバレ、消防音楽隊！（その69）2005・4月更新分

やっと手にした「羽曳野市歌の楽譜」は、当然、市販の印刷された楽譜ではない、「手」で書いたモノです。が、決して難しくはないです。

「オブリガートを付ける」って、更に編曲に懲り過ぎていて、スッキリしている原曲がコッテコテ。大阪のおばちゃん状態。（これは、明らかにイジリ過ぎでしょ(-_-)）

「手書き」に「加筆」されていますので、ゴチャゴチャしてとても見辛い代物になっています。（隊員に配った時も、ほぼ全員が「見にくいなあ〜。」としか、反応しませんでした。）

トニカク合奏してみます。

が、不協和音と言うか、メッチャ気持ち悪い響きが。

音を間違えて演奏しているのか、楽譜自体がオカシイのかよく分かりません。

「？」って感じです。下手な音楽隊ですが、いくらなんでももう少しマシな演奏になるはずなんですが…。先生が慌しく隊員達の間を動き回ってます。

「河井さん。この楽譜は結構間違い箇所多いですよ〜。」

「やっぱり〜(+_+)」

「『編曲者の意図』ではないみたいですね。」

「どうしましょうか？」

「変なところだけ修正して行きましょう。」

「大丈夫ですかね〜？」

って、演奏しながら修正していきますが、「記入ミス」とかのレベルではなく明らかな「間違い」って感じの箇所が多く、仕方なく「改造」。

市歌ですので、元の曲が比較的単純ですから、「改造」するにも助かりました。（この曲は現在でも「成人式」等で演奏する機会があるのですが、今は私の判断で楽譜をカットカット。前奏は全部カット、打楽器パートは全てカット。オブリガートも半分カット。最初の姿とは大分変わってしまいました。随分スッキリした、原曲に近い感じの演奏曲になりましたよ(^^ゞ わざわざ複雑でなくてもいいモノは、シンプルが一番。)

コーラスと合同で演奏する曲は2曲のみ。

日程調整の上、数回合同練習する事にしました。

当消防本部庁舎の4階に「屋内訓練場」と言う部屋があります。名前のとおり小規模な「訓練」も出来るのですが、250人レベルなら講習会も出来ます。（実は庁舎設計の担当していた時分から、「ここは音楽隊の練習にも使えるなあ〜。どんな『音』がするだろう。」と少し期待していました。程よい残響もありそうだし、少しは上手に聞こえるかも。）

音楽隊の楽器も全部運びセッティング。前に消防音楽隊、後ろにコーラス隊です。

さて、合同練習初日、最初に現れたのは初老の男性数名。キョロキョロしながら、

「まだ、誰も来てへんなあ。」と同行者同士でボソボソ。

しばらくして女性グループが

「ちょっとちょっと（連れを手招きしながら）、ここや、ここや。」

ドドドドって感じで登場し、

「いやあ、もう来てはったん〜？」

「せやがな、あんたら遅いんや。」

「なに言うてんの、まだ時間なってへんがな〜。」

いきなり賑やかになります。

さながら元気な井戸端会議。（失礼。）

コーラスの指揮者も到着して一層賑やかです。

（特に「笑い声」がすごいデカイ！）

定刻に、音楽隊員も含め全員着席してもらってから、

「お世話になります、消防音楽隊の河井と申します。」ペコリ

「し〜ん。」

「消防音楽隊にとっては初めて外部の方々との共演となります。」

「し～ん。」

「とても満足な演奏は出来ませんが、よろしく願い申し上げます。」

「し～ん。」

シ・ヤ・ベ・リ・ニ・ク・イ (>_<)

「消防本部庁舎を利用して頂く上で、守って頂きたい事があるのですが、この練習場がある4階以外はご用の無い限り立ち入らないで下さい。

我々も指令があれば出動します。途中で合同練習中止も有り得ます。出動する際、十分な安全管理を行っておりますが、事故の防止のため消防車等の車庫内には立ち入らないで下さい。くれぐれもお願い致します。」

「ふむふむ。」

おっ、やっと反応が(^_^.)

「なお、合同練習中、気分が悪くなられましたら、遠慮なく申し出て下さい。音楽隊員にも救命士や救急隊員がおりますし、必要なら救急車の要請も致します。」

「ふむふむふむ。」

合同練習開始です。

合同演奏はコーラスの指揮者に指揮をお願いしましたので、一通り説明してここで交代。(私は前説担当のADみたい(+_+))

私は楽譜を手に、部屋の隅のパイプ椅子へ。

音楽隊員には初めて楽長以外の指揮者です。

初老男女30名ほどのコーラス隊が急にニコニコしました。

「・・・それでは、一度合わせてみましょう。」

指揮棒を振り1, 2, 3, 4とテンポを取りながら、



「では、どうぞっ」

音楽隊員一同「???」(°_°)(°_°)(-_-)

一瞬後、音楽隊員全員が一斉に『私』の顔を見ます。

(なんだよー。こっち見んなよー。)

コーラスの指揮者は、

「では、どうぞっ」=「(イチ)ニー、サン、ハイッ」って言う意味だったんですけど、音楽隊はそんなの初めて。

全員

「はぁ?(°_°)」って表情です。

(なかには「わからんがな!(-_-;)」って明らかに不愉快な顔の隊員も。これこれ、相手を睨み付けて威嚇するんじゃない。どうどう。)

コーラスの指揮者は、

「もう一度。はい、どうぞっ。」

今度は、なんだか、ノロノロと演奏し出しました。 ~~AKKAKK~~

(なんとかでも、とっても覇気のない音なこと(+o+) まー、練習はしてあるので、始まってしまえば終わりまで演奏は出来るハズです。)

でも、上手でなくても吹奏楽とコーラスでは音量の差は歴然!コーラス全く聞こえません。

(バランスわる~(>_<))

見ていると、コーラス隊が聞こえないのでクチパクに見えます。(パクパク酸欠金魚みたい、(^_^.) 気を悪くしないでくださいね、「声」が聞こえてないだけですから。)


1曲終わった瞬間ザワザワザワザワザワザワ……音楽隊員の比じゃないです。

でも、指揮者が話出すと入っつと静かになります。(ここが違う!)

音楽隊の練習では、いつまでも喋っていて、指揮者（私）の話も聞きません。（幼稚園児ってこんな感じなのかなあ～っていつも思っています。）

今日ばかりは、勝手が違うので音楽隊員は大人しいです。

（指揮者がいつもと違うし、コーラスとして一般市民の方々が自分達の後ろに勢揃いしているので、演奏に自信ない事もあって、隊員達は少々緊張気味。演奏しているフリガナだらけの楽譜を、後ろのコーラスの人達に見られますしね。でもね、実際に後ろからは、覗き込まないと、人の楽譜って見え

ないんですよ。 音楽隊員達は見られていると知っているようですが。）

しかし、この人の「指揮」は、分かりにくく、多少の慣れが必要です。初心者軍団の音楽隊員には少々酷かもしれません。（自分は音楽を勉強した訳でも、指揮を勉強した訳でもない「素人」です。今も「先生達」に助けてもらいながら、四苦八苦しています。一方、隊員達は楽器経験無しです。だからかも知れませんが、私は常に「分かりやすい指揮」を心がけています。往々にして、オーソリティに見られたがる傾向の強い人程、素人に説明したりするの下手ですよ～。「指揮」も同じです。）

指揮者も、気を使ってか、指摘するのはコーラスの事ばかり。音楽隊は付け足し状態。隊員達は**ウンザリ**って顔でこちらばかり見てます。が、私は気付かぬフリ。（彼らには相当なフラストレーション。）
「音楽隊はバックバンドではない。」って事を少しは自覚してくれればいいのです。

今回もそうですが、私は、その都度、その都度に目的（狙い）を作っています。


今回のコーラス合同演奏では、

- ・指定された課題曲を演奏する。
- ・外部者と共演する事でプレッシャーにさらす。
- ・外部の指揮者で演奏を経験する。

全ては消防音楽隊の成長のために。

誰にも分ってもらえませんが・・・(+o+)



おまけデス： 平成17年3月31日付けで27年間続いてきた東大阪市消防音楽隊が活動休止になりました。

2年前まで大阪府内には14の消防音楽隊がありましたが、今は実質11隊です。

3隊が休止や廃止になった理由はそれぞれ違います。

音楽隊の人材確保であったり、内部問題であったり、財政的であったり、・・・事情は全く別々です。

しかし、周知のとおり、現在はどの自治体も緊縮財政です。

個々の音楽隊員は情熱を持って一生懸命に努力しています。

これからどうなるかは分かりませんが、多分、遅かれ早かれウチの音楽隊も・・・。

消防音楽隊も、この「ガンバレ！」も存在しているうちにメール下さい。

皆さんが気づいた時には、隊もコーナーも消滅してたりします。ほんとに。

kasisyo@khf119-osaka.jp

次回「『リハーサル』なさ～る。」です。